

<p>音楽 (Music)</p>	<p>1 年・半期・1 単位・必修 5 学科共通・担当 荒巻 徳代</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔教育方法等〕 概要： 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。</p> <p>授業の進め方と授業内容・方法： 前半は、主に座学による講義とピアノ伴奏による歌唱であるが、後半は、各自のギター練習にも取り組む。</p> <p>注意点： 関連科目 世界史、日本史、語学などは作品の理解を深める為に必要であり、関連が深い。</p> <p>学習指針 時代、曲種等に偏りなく、幅広いジャンルの作品に触れ、多様な音楽を受け入れることが重要である。</p> <p>自己学習 常に音楽に親しみ、同じ作品でも演奏者によって表現の違いがあることを知り、より深く味わうようにすることが大事である。</p>		
<p>〔教科書〕 「ON!」音楽之友社</p> <p>〔補助教材・参考書〕 楽譜プリント・楽典問題プリント</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校歌の合唱や多くの歌唱曲に親しみ、多様な表現形態の作品を歌うことができる。 2. オペラ・ミュージカルの舞台芸術を鑑賞し、それらの文化的歴史的背景に関心を持ち、その良さや価値について考え、味わうことができる。 3. ギター演奏で、メロディー奏、コードのストローク奏を体験し、楽器演奏の楽しさを感じることができる。 		
<p>〔評価割合〕 歌唱試験、定期試験、自由曲演奏試験の 3 項目を均等に評価に入れる。</p>		

授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己評価*
半 期	1 週	ガイダンス	音楽の授業内容，定期試験，実技試験の内容が理解できる。 発声練習の目的，役割を理解できる。	
	2 週	歌唱・楽典	校歌の楽譜の見方を理解し，4 番まで歌唱できる。 音符，休符，音名(日本・イタリア・ドイツ・英米)について理解できる。	
	3 週	同上	校歌低音部の練習後，二部合唱ができるようにする。 教科書の数曲ピアノ伴奏で歌うことができる。 音楽用語の種類について知る。	
	4 週	オペラ鑑賞	「カルメン」(ビゼー作曲)を鑑賞することができる。	
	5 週	ミュージカル映画鑑賞	「サウンド・オブ・ミュージック」(R. ロジャース作曲)を鑑賞することができる。	
	6 週	歌唱試験	課題曲を暗譜で独唱することができる。	
	7 週	4, 5 週のまとめ 楽典	オペラとミュージカルの違いが分かり， 音程，和音について理解できる。	
	8 週	ギター練習	ギターの種類，各名称や奏法を知り，基本のポジションと チューニングについて理解することができる。	
	9 週	ギター・歌唱	音階，簡単なコードを練習の上，配布プリントの曲が演奏で きる。	
	10 週	ギター・歌唱	コードを少しずつ増やし，教科書，配布プリントの曲を 歌唱し，ギターでも演奏できる。	
	11 週	ギター・歌唱	コードを少しずつ増やし，教科書，配布プリントの曲を 歌唱し，ギターでも演奏できる。	
	12 週	ギター・歌唱	コードを少しずつ増やし，教科書，配布プリントの曲を 歌唱し，ギターでも演奏できる。	
	13 週	楽典	楽典を復習した上，それが理解できる。	
	14 週	実技試験	歌唱，その他楽器での自由曲の演奏試験で，自分らしく演奏 することができる。 (2 人以上で演奏する場合は重唱・重奏であること)	
	15 週	期末試験	授業内容を理解し上で，問われていることに対し適切に答え ることができる。	
	16 週	実技試験および 答案返却	歌唱，その他楽器での自由曲の演奏試験で，自分らしく演奏するこ とができる。(2 人以上で演奏する場合は重唱・重奏であること) 試験問題を見直し，理解が十分だったところを補うことができる。	

* 4 : 完全に達成した， 3 : ほぼ達成した， 2 : やや達成できた， 1 : ほとんど達成できなかった， 0 : まったく達成できなかった。